



編集月旦 2013年7月号

★「アベノミクス」（「人からカネへ」の経済政策）に対して、年金暮らしの高齢者の目は醒めています。2年で2倍にという「異次元の金融緩和」によって、「豊かになれるものはなれ」という政策は、みんなで労苦をともにして、「みんなで豊かになろう」とした戦後政治の立場とは基本的に違いますから、この政権によって年金暮らしの高齢者層にその恩恵がいつどの程度及ぶのかはわかりません。限りなく格差が拡大してゆくことだけは実感してのとおりです。

☆外国の友人から「このまま推移して、国際的に先行する日本高齢社会は、どういう形の成功モデルになりますか」と問われて、まことに残念なことです。うまく答えられないところにまできています。アジアの高齢化途上諸国がモデルにするような成功事例にむかっていないことは、これも高齢者が実感しているとおります。

☆ひとり暮らしのお年寄りの「孤独死」が各自治体で増えていること。高齢者への敬愛の心に欠ける事象が次々に起きていること。肝心の3000万高齢者に存在感がなく、「人生90年時代の成熟社会」の現役として、保持している「技術・知識・資産」を活かして、生活感性に合わせた新たな「モノ・居場所・しくみ」をこしらえる意欲に乏しいこと・・・

☆衆院選と参院選を通じて、課題・争点として「長寿社会（高齢社会）」を論じる気配がないこと。11年ぶりに改訂された「高齢社会対策大綱」を検討して、内閣が国民にむかって「高齢社会構想」を示さないこと。高齢社会対策担当大臣が有名無実であること・・・

★男性の日ごろの「アンチエイジング」の重要性を三浦雄一郎さんの主治医のひとり白澤卓二さん（順天堂大加齢制御医学）が述べています。「食事・生きがい・運動」が三大要素であること。性格が前向きであること。三浦雄一郎さんは、からだ＝体力は60歳代。ころざし＝「夢」は世界6位の高峰からの滑降、ふるまい＝負荷をかけての外出による日ごろの鍛錬。きっと「85歳の目標」も成功させるでしょう。

☆男性は女性との平均寿命の差7歳を縮めて、女性ばかりに負担を負わせないよう日ごろの「アンチエイジング」によって「健康・知識・技能」のバランスを高める必要があります。そうでないと7歳年上の女性と結婚しないと一っしょに終われない。

★成田市生涯大学院36期生のみなさんと[丈人のススめ「人生90年」の生き方]について話し合ってきました。6専門講座は園芸・陶芸・書道・油絵・体操・音楽の「技術」系の個人的関心の高いもので、高齢期に必要な「知識」は一般教養として共有して学んでいます。まず自分が夢中になって楽しんで、クラスみんなで切磋琢磨して楽しんで、その後市民みんなと楽しむという形に特徴があります。3年の間に生涯にわたる学友を得られることは「人生90年時代」の何よりの支援になるものと納得されます。

★政治リーダーの言動が隣国ばかりか広く国際的にもわが国の「孤立」を招いています。例年、8月15日「終戦記念日」の靖国神社への閣僚参拝が問題になりますが、日本人の死生観による「A級戦犯もすべて英霊」とする考え方は、欧米や中国ではだれもが認めることのできない「ルール違反」になることは知って対処せねばならない問題です。

☆米・中・露という三大国にはさまれた「小日本」が国際的に認められる国として立つには、国防軍にたよらずに国防意識と平和主義を強くする「特性を活かした地域の発展」に力をそそぐことです。「強い地域」なら誰が異論を唱えるでしょうか。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むみんなが等しく豊かさを享受する「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。（編集人 記）

